

白山国立公園 レンジャーとお仕事



各国立公園には「レンジャー」という国立公園の管理をする職員がいます。
訪れる人が豊かな自然とのふれあいを楽しめるように、
レンジャーは自然の保護や適切な利用をすすめるなど様々な仕事に取り組んでいます。

白山レンジャーの仕事はこれだ!

●公園内の巡視

日本三名山のひとつである白山には、毎年たくさんの登山者が訪れます。そんな白山国立公園で重要となるのが、登山道や避難小屋などを利用者が安全に利用できるように維持することです。このため、登山道等に異変がないかを確認する巡視を行い、危険な箇所があれば応急対応をしたり、大規模な異常があれば修繕しています。



●外来植物対策

白山では登山者の靴、山小屋や工事の荷物にくっついて、外来植物（白山にはなかった植物）が侵入し、その分布が拡大しています。その結果、白山の植物が外来植物との間に雑種を作ったり、外来植物に生育場所を奪われたりして、白山の自然への影響が懸念されています。このため、外来植物がどこに生えているのか調べたり、除去をしたり、靴の種子を除去するマットを設置したりしています。



●ニホンジカ調査

黒く潤んだ瞳が魅力的なニホンジカですが、増えすぎると地域の植物を食べつくし、植物の絶滅や土砂災害の原因になることが知られています。
白山の周辺でも近年増加傾向のため、自動撮影カメラを設置して生息状況を調査したり、植生を調査して食害のリスクの高い場所を調べたりしています。



●普及啓発活動

皆さんに白山を守りながら自然とふれあい楽しんでもらうように、自然観察会を開催したり、レンジャーのミニ体験をする「子どもパークレンジャー活動」を実施したりしています。また、パークボランティアの皆さんとともに登山道の巡視や清掃、ゴミ持ち帰りの呼びかけなども行っています。

